

畑作技術情報

発行 令和2年6月9日
第2号
たいせつ農業協同組合
営農部 農産販売課
本所 営農センター 57-2357
支所 営農センター 87-4111

赤かび・赤さび病の防除

<赤かび病>

赤かび病は開花時期が最も感染しやすいので、開花状況を確認し開花始めに防除を実施します(図1、表1参照)。

<赤さび病>

また、近年気温の上昇と乾燥が続き、赤さび病の発生が見られます。止葉抽出期に初期発生を確認した場合はさび病に効果のある殺菌剤を散布します(表2参照)。

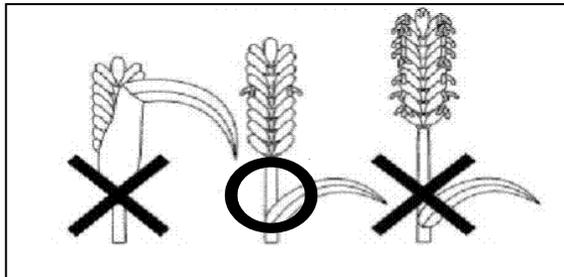


図1 赤かび病防除開花始めのタイミング

表1 赤かび病参考防除歴

	生育ステージ	薬剤名	系統名	病害・希釈倍率	回数
				赤かび病	
1回目	開花始め	シルバキュアFL	DMI	2,000	2
2回目	前回から7日後	ベフトップジンFL	他合成・ バツイダザール	1,000	1
3回目*	前回から7日後	シルバキュアFL	DMI	2,000	2

※3回目の防除は春まき小麦の方は実施しましょう。

表2 赤さび病参考防除歴

	生育ステージ	薬剤名	系統名	病害・希釈倍率	回数
				赤さび病	
1回目	さび病確認時 止葉抽出期	アミスター20フロアブル	Qol	3,000	3
2回目	止葉抽出期 ～穂ばらみ期	チルト乳剤25	DMI	2,000	3

秋・春小麦の害虫防除について

<アブラムシ類>

秋まき小麦の出穂期以降は、アブラムシ類の防除時期となります。1穂当たり7～11頭寄生し、寄生穂率が45%を超えると減収するため防除しましょう。

<ムギキモグリバエ>

近年春まき小麦の被害が増えつつあり、発生期が平年より早く発生量もやや多いと予想されています(北海道病害虫防除所)。なお、遅くまほほど加害期間が長くなり被害を受けやすくなるため、発生初期からの防除が重要で6葉期頃まで2回程度、茎葉散布を実施しましょう。

対象害虫	薬剤名	希釈倍率	使用基準
アブラムシ類	トレボン乳剤	2,000倍 (50ml/10a)	収穫14日前まで/2回以内
アブラムシ類 ムギキモグリバエ	スミチオン乳剤	1,000倍 (100ml/10a)	収穫7日前まで/1回
	エルサン乳剤	1,000倍 (100ml/10a)	収穫7日前まで/4回以内

～農作業事故・農薬のドリフトへ細心の注意を払いましょう～